

喜久子が生きていたら

あり、橋脚の下に浅瀬があ の遊びと冒険の場だった。 **紗河川・赤川は子どもたち** 四地区山添の間を流れる一 ゆ~Town」のそばに 黒川橋は今の日帰り温泉 櫛引地域の東地区黒川と はペッチ)でも遊んだ。 れているカジカを捕った。

楽しんだのが魚捕り。丸い 水中眼鏡は「ダンコ」と呼 けは守った。2人で一緒に はど大きかったが、3歳年 はれ、装着し潜っては川マ ィプで、その指示や言いつ は同級生から頭1つ抜ける 上の長男・勝がガキ大将タ 終戦時7歳だった剛少年

> スをヤスで突いた。四角い (中) と言い残して、19歳で隣村 同級生たちとバスケットボ 中学生に上がったばかり。 活動に夢中の日々を過ごし を気遣う思いはあったが、 に嫁に行った次姉・喜久子 ル、サッカーなどクラブ

姉急変、急性肺炎

昭和25年に嫁入り

兄のやり方をまね、ガラス 右手のヤスで水底の石に隠 玉、メンコ(庄内の呼び名 昭和25 (1950) 年4 もらえない」と無理して家 たのに「働かないと認めて 慣れない環境で体調を崩し 姉の急変が伝わってきた。

「ガラス箱」は左手で持ち、 事に農作業に働いた。その だが嫁に行ったばかりの

月、「剛や、元気でいてよ」 生剤ペニシリンに向かった。 うち高熱が出て、治まらな れ始めた解熱作用のある抗 終戦後、日本でも実用化さ 変わった。症状は日増しに ったが、明らかにおかしか ない。最初は風邪の診断だ い、いったん山添の実家に くなった。嫁ぎ先と話し合 悪くなった。 った。再診断で急性肺炎に ってくる季節で、汗はびっ 戻ることになった。暑くな 気が気でない両親の思いは しょり出るのに熱は治まら 苦しがる喜久子を見て、

ペニシリン入手頼り

まだ高根の花。それでも父 という情報が入った。急ぎ、 た関係があって、役場を通 ぶ流通してきたが庄内では ・元雄が村会議員をしてい じて山形市の病院に届いた 東京など首都圏ではだい

20歳の柏戸。富樫から改名 したばかりの頃だ



たが、グッタリした喜久子 辛抱だぞ」。家族は励まし れた。「大丈夫だ。少しの のりを国鉄・鶴岡駅に運ば 入院の手続きが取られた。 は反応が少なかった。そし ーに乗せられ、約85の道 両親と兄・勝が漕ぐリヤカ 世につながったと思うと後 なんでだ」両親は悲嘆に暮 悔しか残らなかった。 置いたが、早い嫁入りが早 れた。中学卒業後、実家に やろうと思ったんだろう。 「どうして、焦って嫁に

剛4年後角界入り

た病院で死亡が確認された。 駅に到着したが、すでに意 嫁入りからわずか3カ月半 識はなく、救急車で運ばれ て両親に付き添われ、山形 山添中卒業後、兄に連れら なった4年後の29年秋場所。 れた東田川郡相撲大会で活 剛の角界入門は姉が亡く

た。山形市で 通れない が骨壺を抱 月19日だっ き、実家に戻 火葬され、父 余り。25年7 渡し、車両は った。今は平 ぐ主要道路だ と黒川をつな 黒川橋は山添 祇橋に役割を 始めるうちに立派な体を認 て重い自転車に乗って通い い国道 剛の気持ちを優先させたも められ声を掛けられた。市 時制に十分舗装されていな 躍し注目された。また約6 のだった。 れ、街の学校で伸び伸び学 が山添高に進み「兄から離 内の学校に進学したのは勝 ・5き離れた鶴岡南高校定 校生活を送りたい」という 12号線を、黒く (富樫 嘉美) ||敬称略||

ら救い、 20世紀の偉大な発見の1つ 負傷兵や戦病者を感染症か 見した世界初の抗生物質。 グはノーベル生理学・医学 医療現場に提供されてきた。 第2次世界大戦中に多くの として数えられ、フレミン レミングが1928年に発 ニシリン英国のフ 細菌性の肺炎など

火曜 日付掲載予定

賞を受賞した。